

平成28年度事業計画書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

社会の繁栄の基礎は、科学技術の進歩と産業経済の発展にあるとの考えに基づき、わが国の優れた独創的な研究開発を推進し、科学技術の発展と国民生活の向上に貢献したいという当財団設立提唱者市村氏の想いを実現するため、平成28年度も関係各方面の方々のご支援・ご協力をいただき以下の事業活動を推進します。

平成23年度から始めた東日本大震災復興支援は、昨年度で5回目となり、当初の目的を果たしたと判断し、今年度は実施しないこととします。

1. 科学技術の研究開発助成

1) 新技術開発助成

科学技術に関する独創的な技術を実用化するために技術開発の努力をしている中小企業へ助成します。

また、助成で開発した成果をその後社会に役立つ商品につなげて欲しいと願い、商品開発および営業力のある企業からの申請を増やす狙いで、平成21年度に助成金の増額などを実施しました。今後さらに中小企業の技術開発が社会に役立つ商品につながるよう充実・強化していきたいと考えています。

平成28年度は助成金380,000千円と調査・審査費を含め、410,700千円を計上します。

2. 科学技術顕彰と国際交流

1) 科学技術顕彰

科学技術に進歩をもたらし、もってわが国の経済社会の発展と国民生活の向上に寄与する産業、学術両分野の進展に多大の貢献をされた個人またはグループを市村賞として表彰します。本市村賞は产学界において顕著な賞として認知されており、引き続き顕彰事業の充実を図っていきたいと考えています。

平成28年度は産業賞、学術賞の賞金90,000千円と調査・審査・表彰式費用、広報費用を含め、134,500千円を計上します。

市村産業賞	本賞 功績賞 貢献賞	1件 2件 5件	賞金 (20,000 千円) 賞金 (5,000 千円) 賞金 (3,000 千円)	記念牌
市村学術賞	特別賞 功績賞 貢献賞	1件 2件 5件	賞金 (20,000 千円) 賞金 (5,000 千円) 賞金 (3,000 千円)	記念牌

2) 国際技術交流

市村学術賞受賞者が受賞研究に関連する国際会議、国際研究集会に出席する場合に渡航費を助成します。

また、わが国において国際会議等の国際技術交流の場を開催しやすくするため

の支援を積極的に行うため、市村学術賞受賞者が国際会議等の運営責任者である場合、会議運営費の一部を助成します。

平成28年度は国際会議の会議運営に関する助成を一部改定し、対象者がより使いやすくするようにいたします。これに合わせ、平成28年度は両方併せた国際技術交流費用として22,600千円を計上します。

3. 科学技術の創造性育成

1) 市村アイデア育成

次代をになう小・中学生を対象として、科学への追求、創造への意欲を高めるよう育成するもので、小・中学生のアイデアの芽生えを奨励するため、独創的なアイデアを募集し、その優れたものを表彰します。

平成28年度は募集活動を更に積極的に展開する費用や奨学金等の育成費用として30,000千円を計上します。

2) キッズ・フロンティア・ワークショップ

小・中学生を対象に科学技術に関する講話や実験・製作などをとおして、科学の原理を楽しみながら理解し、さらに科学技術への興味、意欲を高めてもらうことを狙いとするワークショップを実施します。

毎年、東京と地方で実施しており、特に地方では例年好評を得ています。

平成28年度は更に内容の充実を図り、東京で半日コースを1回、一日コースを1回（2日間）、地方で一日コースを1回（2日間）の計3回実施する費用として18,200千円を計上します。

4. 植物生育の研究助成

1) 植物研究助成

植物の生育環境および計測技術に関する研究の場として植物研究園を提供するとともに研究費を助成します。

平成28年度も、一般課題研究助成と特定課題研究助成を行い調査・審査費を含め、植物研究助成費として36,300千円を計上します。

2) 植物研究園運営

平成28年度は庭園の一般開放で来場者が増加し、安全性と利便性強化の必要が生じたことと、建物の老朽化が進む植物研究園の補修をメインとし、運営のための費用として31,500千円を計上します。

5. 事業共通

事業広報

財団の事業内容を広く知っていただくための主な広報活動として、ホームページの運用、年報の発行、広告等を行っております。平成28年度はこれを強化すると共に、財団史編纂活動費等を加え22,200千円を計上します。

6. 決算監査

平成27年度決算の会計監査人の監査費用として2,800千円を計上します。